

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症"d"の補足説明(例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。また、ベッドサイドでの創感染の開放はGrade Iとする。	制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞"d"("disability")を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
脳卒中	臨床所見のみで治療を要さない	抗凝固薬治療などの内科的治療を要する	全身麻酔を要さないIVRによる治療を要する(脳血管内治療など)	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ、クリッピング、脳血管バイパス術、頸動脈内膜剥離術など)	準集中治療室/ICU管理を要する	準集中治療室/ICU管理を要し、呼吸不全を伴う	死亡	片麻痺が持続
反回神経麻痺	臨床所見または検査のみで治療を要さない	誤嚥により抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	摂食が不可能なほどの誤嚥があり、局所麻酔下での治療を要する(声帯注射、気管穿刺など)	全身麻酔下での治療を要する(鎮静下での気管切開を含む)	人工呼吸管理を要する	敗血症、複数の臓器不全	死亡	嘔声、会話困難、筆談を要する、気管切開のまま退院
上腕知覚異常	臨床所見のみで治療を要さない	内科的治療を要する	神経ブロックなどの外科的治療を要する	-	-	-	-	上腕部の知覚異常が持続
切除部位の感覚異常(Phantom pain)	臨床所見のみで治療を要さない	内科的治療を要する	神経ブロックなどの外科的治療を要する	-	-	-	-	幻肢痛が持続
虚血性心疾患	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗凝固薬治療などの内科的治療を要する	心臓カテーテル治療を要する	全身麻酔下での治療を要する(冠動脈バイパス手術)	低心拍症候群を伴う心不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	低心拍症候群を伴う心不全と腎不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	死亡	心筋梗塞後の心不全が持続
心嚢液貯留	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する、既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(開窓術)	心タンポナーデにより、準集中治療室/ICU管理を要する	心タンポナーデと腎不全により、準集中治療室/ICU管理を要する	死亡	-
除脈性不整脈	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	硫酸アトロピン、β刺激薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(ペースメーカー植え込みなど)	-	低心拍症候群を伴う心不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	低心拍症候群を伴う心不全と腎不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	死亡	-
上室性不整脈	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗不整脈薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(カテーテルアブレーション、同期カルディオバージョンなど)	-	低心拍症候群を伴う心不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	低心拍症候群を伴う心不全と腎不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	死亡	-
心室性不整脈	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗不整脈薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(カテーテルアブレーション、体外式除細動、埋め込み型除細動留置など)	-	低心拍症候群を伴う心不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	低心拍症候群を伴う心不全と腎不全があり、準集中治療室/ICU管理を要する	死亡	-
無気肺、喀痰排出障害	臨床所見または検査所見のみで、ネブライザーや去痰薬や肺理学療法(例:体位ドレナージなど)以外の治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	気管支鏡による吸引、全身麻酔下以外の外科的治療を要する(例:気管穿刺など)	全身麻酔下での治療を要する(鎮静下での気管切開を含む)	人工呼吸管理を要する	敗血症、複数の臓器不全	死亡	気管切開のまま退院

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症"d"の補足説明(例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。	制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞"d"("disability")を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
気管瘻、気管支瘻	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	—	局所麻酔下での治療を要する(胸腔ドレナージ、内視鏡的治療、外科的治療を要する[ステント留置、一次縫合など])、既存のドレイン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する	敗血症、複数の臓器不全	死亡	チューブドレナージ、開窓のまま退院
肺瘻	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレインによるドレナージのみ)	胸膜癒着術などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(胸腔ドレナージ、内視鏡的治療、外科的治療を要する[ステント留置、一次縫合など])、癒着薬の胸腔内投与など; 既存のドレイン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(肺瘻閉鎖術、癒着術)	人工呼吸管理を要する	敗血症、複数の臓器不全	死亡	チューブドレナージ、開窓のまま退院
乳び胸	ドレイン排液や胸水穿刺液の乳び所見のみで治療を要さない(既存のドレインによるドレナージのみ)	脂肪制限食または経静脈的栄養管理を要する	画像ガイド下でのドレイン留置・穿刺を要する; 既存のドレイン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(胸管結紮術など)	—	—	死亡	呼吸困難感の持続、低栄養
胸水	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレインによるドレナージのみ)	利尿薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレイン留置・穿刺を要する; 既存のドレイン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する	複数の臓器不全	死亡	呼吸困難感の持続
肺捻転	—	—	—	全身麻酔下での治療を要する(外科的整復、肺葉切除など)	人工呼吸管理を要する	敗血症、複数の臓器不全	死亡	—
腹水	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレインによるドレナージのみ)	利尿薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレイン留置・穿刺を要する; 既存のドレイン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	腹満感の持続
下痢	2,000ml/日以上以上の腸液排出を認めるが治療を要さない	2,000ml/日以上以上の腸液排出に脱水または電解質異常を伴い静脈内輸液を要する	—	—	—	—	死亡	高度な腸液排出の持続
嚥下障害	症状があるが、通常食の摂取が可能臨床所見のみで治療を要さない	症状があり、摂食/嚥下に影響がある補助的な経管栄養管理、経腸的/経静脈的栄養管理(TPNを含む)を要する	摂食が不可能なほどの嚥下障害があり、局所麻酔下での治療を要する(気管穿刺や内視鏡下での胃瘻造設など)	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	胃瘻造設
腸管瘻	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレインによるドレナージのみ)	抗生剤薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレイン留置・穿刺を要する; 既存のドレイン入れ替えも含む	全身麻酔での治療を要する(ストマ造設)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	腸管皮膚瘻の持続

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症”d”の補足説明 (例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRIによる治療を要さないもの。ただし、制吐剤薬、解熱剤薬、鎮痛剤薬、利尿剤薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。また、ベッドサイドでの創感染の開放はGrade Iとする。	制吐剤薬、解熱剤薬、鎮痛剤薬、利尿剤薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRIによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRIによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する。生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)。かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)。かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞”d”(“disability”)を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
腸管虚血・壊死	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	IVRIによる治療/内視鏡的治療/外科的治療を要する	全身麻酔下での治療を要する(腸管切除など)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	在宅での経腸的/経静脈的栄養管理
胃管壊死	経口造影剤検査やドレーン造影でわずかな瘻孔を認める(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療、経腸的/経静脈的栄養管理を要する	IVRIによる治療/内視鏡的治療/待機的な外科的治療を要する。既存のドレーンの入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	
逆流性食道炎	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	PPIや胃酸分泌阻害剤薬などの内科的治療や経腸的/経静脈的栄養管理を要する(TPNを含む)	—	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	胸焼けの持続
痙攣性イレウス	臨床所見または検査所見を認めるがのみで、緩下剤薬以外の内科的治療や経静脈的栄養管理を要さない	緩下剤薬以外の内科的治療やNGチューブの留置。経静脈的栄養管理を要する(TPNを含む)	イレウス管の留置	全身麻酔下でのイレウス解除(腸管切除の有無は問わず)	腸管の広範壊死。または人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	在宅での経静脈的栄養管理
胆汁漏	術後3日目以降のドレーン排液アミラーゼ値が施設基準値上限の3倍以上だが、治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する。既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	CTで胆汁性膿瘍の残存あり、時に発熱や腹痛
閉塞性イレウス	臨床所見または検査所見を認めるがのみで、緩下剤薬以外の内科的治療や経静脈的栄養管理を要さない	緩下剤薬以外の内科的治療やNGチューブの留置。経静脈的栄養管理を要する(TPNを含む)	イレウス管の留置	全身麻酔下でのイレウス解除(腸管切除の有無は問わず)	腸管の広範壊死。または人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	在宅での経静脈的栄養管理
胃排出遅延	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	蠕動亢進薬などの内科的治療やNGチューブの留置。経腸的/経静脈的栄養管理を要する	—	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	食後の嘔気の持続
ダンピング症候群	臨床所見のみで治療を要さない	内科的治療を要する	—	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	ダンピング症状の持続
胆汁瘻	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する。既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	CTで仮性のう胞の残存あり。時に発熱や腹痛

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症”d”の補足説明 (例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐剤薬、解熱剤薬、鎮痛剤薬、利尿剤薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。また、ベッドサイドでの創感染の開放はGrade Iとする。	制吐剤薬、解熱剤薬、鎮痛剤薬、利尿剤薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する。生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する(生命を脅かす合併症の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞”d”(“disability”)を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
胆嚢炎	臨床所見または検査所見を認めるがのみで、利尿剤薬以外の内科的治療を要さない	抗生剤薬以外の内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(PTGBDなど)	全身麻酔下での治療を要する(胆嚢摘出術)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	時に発熱や腹痛
消化管縫合不全	経口造影剤検査やドレーン造影でわずかな瘻孔を認めるのみ(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤薬などの内科的治療や経腸的/経静脈的栄養管理を要する(TPNを含む)	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する、開創によるドレナージや既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(縫合、再吻合、バイパス、ドレナージ、ストマ造設など)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	在宅での経腸的/経静脈的栄養管理
尿管損傷	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤薬などの内科的治療を要する	経尿道的尿管ステント挿入	全身麻酔下での治療を要する	急性腎不全、人工透析	敗血症、複数の臓器不全	死亡	尿管ステント留置のまま退院
尿道損傷	尿路カテーテル留置を要する	抗生剤薬などの内科的治療を要する	局所または腰椎麻酔下での治療を要する(経皮的膀胱瘻造設など)	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	尿道路カテーテル留置のまま退院
術後出血	圧迫のみでコントロール可能	輸血あるいはまたは内科的治療を要する	局所麻酔下での外科的止血術あるいはまたは内視鏡やIVRによる止血術を要する	全身麻酔下での治療を要する(止血術)	準集中治療室/ICU管理を要する単一の臓器不全	準集中治療室/ICU管理を要する多臓器不全	死亡	貧血症状の持続
Seroma (漿液貯留)	ベッドサイドでの穿刺処置のみ(既存のドレーンによるドレナージのみ)	—	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する、既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	創部からの浸出液の漏出、時に発熱や感染、ドレナージチューブ留置のまま退院など
子宮腔吻合部漏出	臨床所見または内診所見のみで治療を要さない。	抗生剤薬などの内科的治療を要する	—	全身麻酔下での治療を要する(再縫合)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	子宮腔吻合部(異なる2つの解剖学的構造の外科的接合)の縫合不全によるリークの継続
腹壁瘻痕ヘルニア	臨床所見または検査所見のみで、ヘルニアバンド着用やNSAIDs以外の治療を要さない	ヘルニアバンド着用やNSAIDs以外の内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する	全身麻酔下での治療を要する(メッシュ、筋膜再縫合)	腸管の広範壊死、または人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	腹圧時に腸管脱出
創し開	臨床所見のみで、創洗浄以外の治療を要さない	抗生剤薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(再縫合など)	全身麻酔下での治療を要する(再縫合など)	腸管の広範壊死、または人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	創が大きく離開したまま退院
消化管吻合部狭窄	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	経腸的/経静脈的栄養管理を要する(TPNを含む)	バルーン拡張、ステント留置、磁石法	全身麻酔下での治療を要する(再吻合、バイパスなど)	—	—	死亡	外来での頻回の内視鏡的拡張術

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症"d"の補足説明 (例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐剤薬、解熱剤薬、鎮痛剤薬、利尿剤薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。	制吐剤薬、解熱剤薬、鎮痛剤薬、利尿剤薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する。生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)。かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)。かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞"d"("disability")を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
腹腔内膿瘍	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する。既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	CTで膿瘍の残存あり、時に発熱や腹痛
骨盤内膿瘍	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する。既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	CTで膿瘍の残存あり、時に発熱や腹痛
肺炎	臨床所見または検査所見のみで、ネブライザーや去痰薬や肺理学療法(例:体位ドレナージなど)以外の治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	気管支鏡による吸痰や気管穿刺	全身麻酔・鎮静下での気管切開または人工呼吸管理	人工呼吸管理を要する	敗血症。複数の臓器不全	死亡	呼吸困難の持続や時に発熱
縦隔炎	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する。既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	CTで膿瘍の残存あり、時に発熱や腹痛
膿胸	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する。既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	CTで膿瘍の残存あり、またはチューブドレナージ、開窓のまま退院
下肢リンパ管炎 (リンパ腺感染)	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(リンパ管吻合術)	全身麻酔下での治療を要する(リンパ管吻合術)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	—	浮腫の持続
感染性リンパのう胞 (後腹膜膿瘍)	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下もしくは無麻酔でのドレナージを要する	全身麻酔下での治療を要する(切開ドレナージ)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	画像検査で膿瘍の遺残あり。時に発熱や腹痛
感染性子宮頸管炎	臨床所見または内診所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下もしくは無麻酔でのドレナージを要する	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ、子宮摘出)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	感染による帯下の持続
子宮感染	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	頸管の局所麻酔下もしくは無麻酔での頸管プージャー、ドレナージを要する	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ、子宮摘出)	人工呼吸管理を要する肺障害。CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症。複数の臓器不全	死亡	画像検査で膿瘍の遺残あり。時に発熱や腹痛

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症"d"の補足説明 (例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。	制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞"d"("disability")を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
卵巣感染	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での穿刺ドレナージを要する	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ、卵巣摘出)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	画像検査で膿瘍の遺残あり、時に発熱や腹痛
外陰部感染	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での穿刺ドレナージを要する	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ、再皮弁、再筋皮弁皮弁形成、筋皮弁形成)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	画像検査で膿瘍の遺残あり、時に発熱や腹痛
創感染	臨床所見または検査所見を認めるがのみで、ベッドサイドでの創開放や創洗浄以外の治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(ドレナージなど)	全身麻酔下での治療を要する(ドレナージ、再縫合など)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	外来での洗浄継続
インプラント感染	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(切開排膿ドレナージやインプラント除去など)	全身麻酔下での治療を要する(インプラント除去)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	ドレナージチューブ留置のまま退院、感染が持続など
膀胱損傷	尿路カテーテル留置を要する	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	—	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	尿道カテーテル留置のまま退院
尿失禁	導尿、または尿路カテーテル留置を要する	抗コリン薬などの内科的治療を要する	局所または腰椎麻酔下での治療を要する(クランプ、コラーゲン注入など)	全身麻酔下での治療を要する(人工括約筋手術など)	急性腎不全、人工透析	敗血症、複数の臓器不全	死亡	在宅での自己導尿/介助導尿が必要な状態が持続; 尿路カテーテル留置のまま退院
残尿、尿閉	導尿、または尿路カテーテル留置を要する	コリン作動薬などの内科的治療を要する	局所または腰椎麻酔下での治療を要する(内視鏡的治療や尿道拡張術など)	全身麻酔下での治療を要する(瘻孔閉鎖術など)	急性腎不全、人工透析	敗血症、複数の臓器不全	死亡	在宅での自己導尿/介助導尿が必要な状態が持続; 尿路カテーテル留置のまま退院
性交困難	陰挿入時の不快感を認めるが、治療を要さない	エストロゲンの投与を要する	局所麻酔下での治療を要する	全身麻酔下での治療を要する	—	—	—	痛みを伴う性交/性交困難が持続
勃起障害	勃起障害はあるが、陰圧式勃起補助具以外の治療を要さない	PDE5阻害薬などの内科的治療を要する(血管作動薬の陰茎海綿体注入など)	局所または腰椎麻酔下での治療を要する(血管作動薬の陰茎海綿体注入など)	全身麻酔下での治療を要する(陰茎へのプロステーシス永久挿入など)	—	—	—	勃起障害の持続
頸管閉鎖(子宮閉鎖)	臨床所見または内診所見のみで治療を要さない	月経困難症を呈し、鎮痛薬などの内科的治療を要する	頸管の局所麻酔下もしくは無麻酔での頸管プジーを要する	全身麻酔下での治療を要する(子宮頸管拡張術)	—	—	—	子宮口の閉鎖が持続

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

AE term	Gradingの原則							後遺症"d"の補足説明 (例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRIによる治療を要さないもの。ただし、制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。	制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRIによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRIによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞"d"("disability")を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
腔瘻	臨床所見または内診所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	—	全身麻酔下での治療を要する(腔瘻閉鎖術や人工肛門造設)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	腔からの糞尿排泄の持続
卵巣欠落症候群	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	ホルモン補充療法などの内科的治療を要する	—	—	—	—	死亡	ホルモン補充療法の継続を要するほてり、精神科通院継続を要するうつ症状
頸頭部乳び漏	ドレーン排液や穿刺液の乳び所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	脂肪制限食または経静脈的栄養管理を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する、既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	頸頭部圧迫感の持続
漿液漏	臨床所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する、既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	創部からの浸出液が漏出、時に発熱や感染、ドレナージチューブ留置のまま退院など
乳び腹水	ドレーン排液や胸水腹水穿刺液の乳び所見のみで治療を要さない(既存のドレーンによるドレナージのみ)	脂肪制限食または経静脈的栄養管理を要する	画像ガイド下でのドレーン留置・穿刺を要する、既存のドレーン入れ替えも含む	全身麻酔下での治療を要する	—	—	死亡	腹満感の持続
皮下静脈炎 (Mondor氏病)	臨床所見または検査所見のみで、NSAIDs以外の治療を要さない	オピオイドの投与もしくは疼痛管理専門医による投薬、治療を要する	局所麻酔下での治療を要する	全身麻酔下での治療を要する	—	—	—	手術部位周辺に生じる皮下静脈炎、索状物として触れる
血栓症、塞栓症	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗凝固薬などの内科的治療を要する	カテーテルによる血栓除去やIVCフィルタなどの侵襲的治療を要する	全身麻酔下での治療を要する(肺動脈血栓摘除術)	肺・脳・心臓などへの重要臓器における血栓による臓器不全	肺・脳・心臓などへの複数の臓器における血栓による臓器不全	死亡	肺梗塞後の呼吸困難、脳梗塞後の麻痺など
肩関節可動域制限	臨床所見のみで、NSAIDs以外の治療を要さない	オピオイドの投与もしくは疼痛管理専門医による投薬、治療を要する、リハビリテーションを要する	神経ブロックなどの外科的治療を要する	全身麻酔下での治療を要する	—	—	—	肩関節の可動範囲の制限が持続
脂肪壊死	臨床所見または検査所見を認めるが、のみで、ベッドサイドでの創開放や創洗浄以外の治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(切開排膿ドレナージなど)	全身麻酔下での治療を要する	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	創部の脂肪壊死、時に癬痕形成、発熱や感染など
皮膚壊死 (皮弁壊死)	臨床所見または検査所見のみで治療を要さない	抗生剤菌薬などの内科的治療を要する	デブリードメントなどの局所麻酔下での治療を要する(デブリードメント、植皮術など)	全身麻酔下での治療を要する(植皮術)	人工呼吸管理を要する肺障害、CHDFを要する腎障害など1つの臓器不全	敗血症、複数の臓器不全	死亡	上皮化が不十分、感染が持続など

JCOG術後合併症規準 (Clavien-Dindo分類)

v2.0 (2013年4月11日承認)

	Gradingの原則							後遺症“d”の補足説明 (例)
	I	II	IIIa	IIIb	IVa	IVb	V	
AE term	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。また、ベッドサイドでの創感染の開放はGrade Iとする。	制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	患者の死亡	退院時にも合併症が持続していた場合、接尾辞“d”(“disability”)を該当する合併症のGradeに付加する(II-d, IIIa-dなど)。想定される退院時の状況を「例」として示した。
皮下気腫	臨床所見または検査所見のみで、ベッドサイドでの皮下穿刺や胸帯などでの圧迫以外の治療を要さない	—	全身麻酔下以外を要さないIVRによる治療/外科的治療を要する(皮下ドレーン挿入など)	全身麻酔下での治療を要する	—	—	—	皮下組織に空気がたまった状態で退院
上肢浮腫	リンパマッサージや弾性ストッキングの着用以外の治療を要さない	利尿薬の内服などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(リンパ管吻合術)	全身麻酔下での治療を要する(リンパ管吻合術)	—	—	—	弾性ストッキングの継続的着用
下肢リンパ浮腫 (四肢浮腫, リンパ浮腫, 限局性浮腫)	リンパマッサージや弾性ストッキングの着用以外の治療を要さない	利尿薬の内服などの内科的治療を要する	局所麻酔下での治療を要する(リンパ管吻合術)	全身麻酔下での治療を要する(リンパ管吻合術)	—	—	—	弾性ストッキングの継続的着用
閉鎖・大腿神経障害 (歩行障害)	歩行補助具の使用やリハビリテーション以外の治療を要さない	ビタミン薬などの内科的治療を要する	—	全身麻酔下での治療を要する(神経縫合など)	—	—	—	下肢内転制限の持続
創部疼痛	臨床所見のみで、NSAIDs以外の治療を要さない	オピオイドの投与もしくは疼痛管理専門医による投薬、/治療を要する	神経ブロックなどの外科的治療を要する	—	—	—	—	在宅での疼痛管理
その他 (該当するAE termがない場合)	正常な術後経過からの逸脱で、薬物療法、または外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要さないもの。ただし、制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬による治療、電解質補充、理学療法は必要とする治療には含めない(これらが必要と判断されたり行われたりしていてもGrade Iとする)。また、ベッドサイドでの創感染の開放はGrade Iとする。	制吐薬、解熱薬、鎮痛薬、利尿薬以外の薬物療法を要する。輸血および中心静脈栄養を要する場合を含む。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔を要さない治療)。	外科的治療、内視鏡的治療、IVRによる治療を要する(全身麻酔下での治療)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、単一の臓器不全(透析を含む)。	準集中治療室/ICU管理を要する、生命を脅かす合併症(中枢神経系の合併症を含む)、かつ、多臓器不全。	死亡	